

『文化財と技術』

第10号

第一部 美術と技術の歴史

- 山中 理 美術史と金属工芸
 ー唐時代銀器「鍍金狩獵文六花形銀杯」の周りを廻ってー
- 金 跳 咏 原三国～三国時代における鉄製刀剣の製作技術とその意味
- 吉田秀享 鍛冶作業場の推定 ー二例の古代鍛冶炉からー
- 上 梶 武 日本古代の鉄鑄造と素材鉄
- 鈴木 勉 韓半島の鑄造技術と毛彫り技術から藤ノ木馬具・法隆寺へ
- 金 跳 咏 三国時代における鉄鐸の副葬と性格
- 平林大樹 根挟みを用いた後期・終末期古墳副葬矢の構造
- 姜 旼 廷 益山・笠店里古墳出土金銅飾履の復元製作研究

第二部 象嵌研究

- 鈴木 勉・金 跳 咏 威安末伊山5号墳出土象嵌鉄刀の線彫り技術
 ー線彫り技術判定の基準試料の提示ー
- 瀧瀬芳之 日本列島内出土象嵌遺物集成2
 ー刀剣・銚・刀子編（補遺・追加）及び馬具・鏡 他編ー

第三部 金石文研究

- 福井卓造 七支刀銘の「為倭王旨造」について
- 鈴木 勉 漧の技術・石刻の技術
- 鈴木 勉 會津八一先生筆色紙「心」について

第四部 復元研究

- <宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究>
- 鈴木 勉 復元の企画
- 鈴木 勉 復元のための調査と推定
- 藤安将平 (作刀補助：有賀一久・中西裕也 記録：金 跳 咏)
 刀身の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製鞘の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製柄の復元
- 山田 琢 金銅装の復元
- 鈴木 勉 鑄造鈴の復元

〈宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究〉
 鑄造鈴の復元

工芸文化研究所 鈴木 勉

1. 鈴の製作図

鈴の製作図は出土鍛造鈴を参考にして図1の通りとした

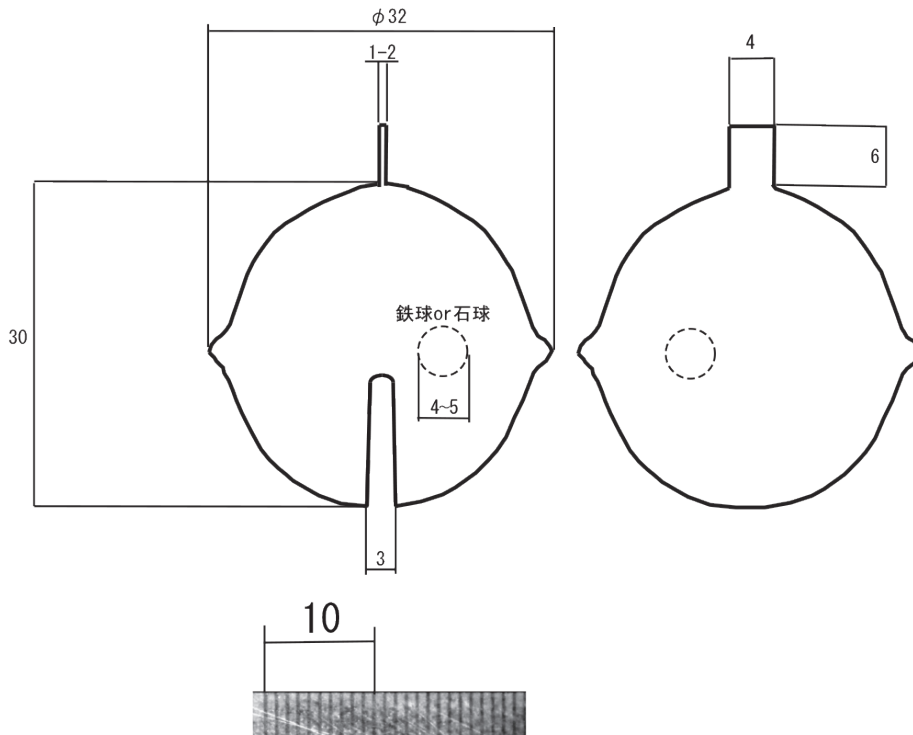


図1 宮地嶽古墳出土大型大刀 鐔に付属する鈴
 計8点（ほかに予備2点） s:1/1

2. 鈴の配合成分

銅：85%、錫：10%、鉛：5%

3. 製作工程

製作工程を図で示す（図2～11）

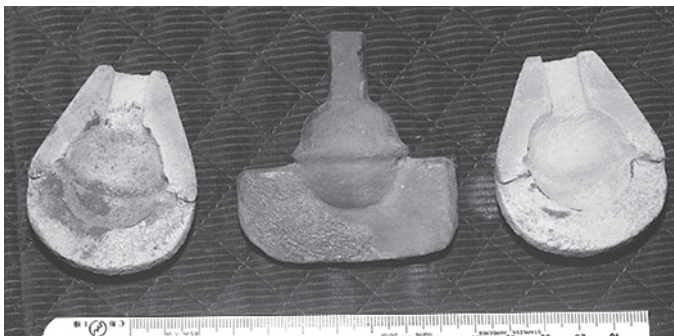


図2 原型と鑄型

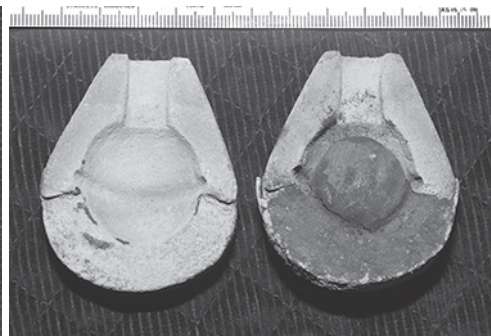


図3 中子と鑄型

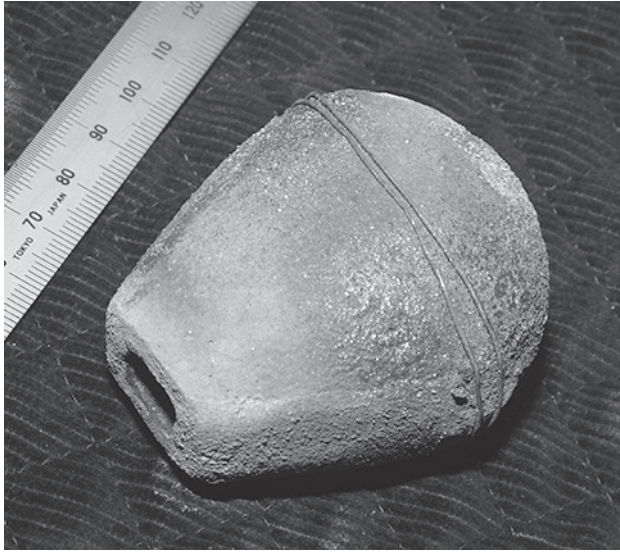


図4 鋳型を組んだところ

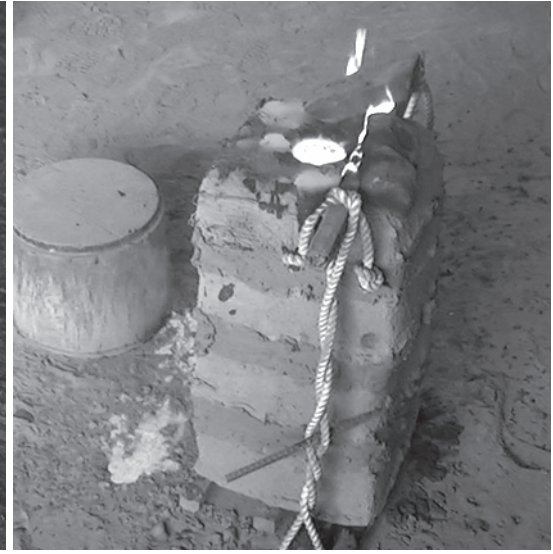


図5 鋳込み直後

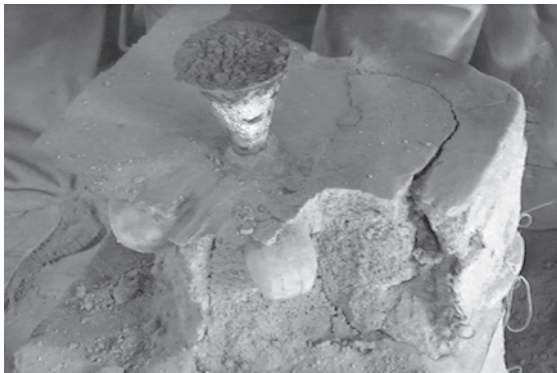


図6 鋳型を外す



図7 鋳型を外したところ



図8 鋳型から取り出した鈴

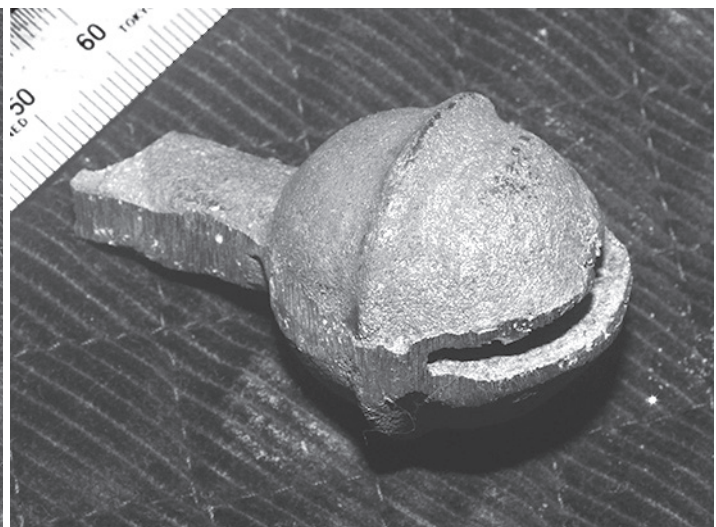


図9 湯道などを除去した後の鈴



図10 仕上げ加工1

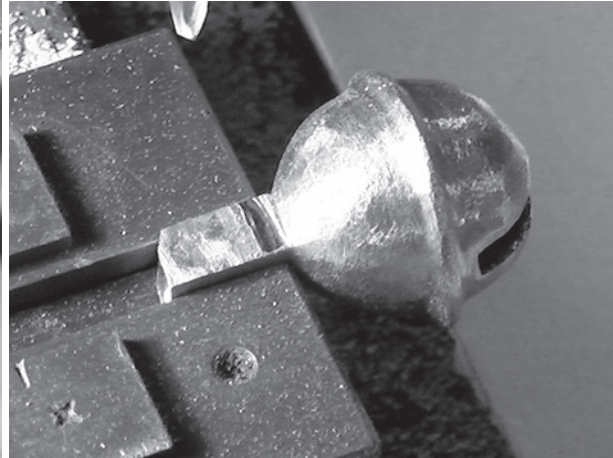


図11 仕上げ加工2

以上

文化財と技術 第10号

2021年 9月30日 印刷

2021年10月 1日 発行

編集 鈴木 勉
発行 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
発行所 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印刷 千葉刑務所
千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)